



# 宗 像



## 宗像大社文書第三卷 上梓・刊行 天皇・皇后両陛下に献上、 宗像大社文書刊行事業完結

宗像大社復興期成会(会長 出光興産(株)名誉会長出光昭介氏)による一連の復興事業の掉尾を飾る宗像大社文書第三巻が、天皇陛下御即位二十年奉祝事業として二月十一日に刊行された。  
 全国神社のなかで質量ともに最上級のものの一つである当大社所蔵史料を編纂・刊行すべく進められてきたもので、既刊第一巻・第二巻に続き第三巻をもって、宗像大社文書刊行事業は完結した。

### 皇室へ献上

一般への公刊に先立ち二月十七日、天皇・皇后両陛下のもとへ宗像大社復興期成会並びに宗像大社より献上申し上げた。

二月十六日神島宮司、随行神職が上京。翌十七日、出光興産(株)、出光美術館の御配慮を賜り、まず赤坂御用邸を訪問。皇太子殿下、当大社三宮をご参拝され所縁深い三笠宮崇仁親王殿下へ、東宮侍従、三笠宮付宮務官を通じ献上申し上げた。

続いて、坂下門より宮中へ参内、侍従次長を通じ陛下の御即位二十年を奉祝し公刊される旨をお伝えし、天皇・皇后両陛下へ献上申し上げた。



出光興産(株)本社から望む皇居

### 4月祭事暦

- 1・2日 春季大祭  
 (1日目)午前11時～一日祭  
 (2日目)午前11時～二日祭  
 午前11時40分～  
 高宮祭、第二宮・第三宮祭  
 宗像護国神社 春祭  
 交通安全講社祭
- 8日 天皇皇后両陛下  
 御結婚五十年奉祝祭  
 午前11時～
- 10日 沖・中両宮春季大祭  
 午前11時～ 於=大島・中津宮
- 15日 月次祭  
 午前10時～  
 高宮祭、第二宮・第三宮祭  
 午前11時～ 総社祭
- 29日 昭和祭  
 午前11時～



来る四月十二日、久留米市において前航空幕僚長田母神俊雄氏による講演が行われる。講師の田母神氏は「大東亜戦争は侵略戦争ではなかった」との論文で物議をかもし、航空幕僚長の職を退かざるを得なくなった方であることは、ご承知のことと思う。

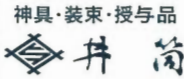
ではこの発言が果たして事実にしたものであったのであろうか。その判断の根底が、勝者が敗者を裁いた「東京裁判」史観に基づいたものであることは明白である。つまり外圧に屈した自虐史観を、いまだに払拭できないでいることを示している。

何も戦争を肯定するつもりはない。しかし民族の自尊を失つては、国は滅びるしかない。国家の歴史と伝統を正しく認識し、子々孫々継承し愛国精神を培うことこそ、国の存続と繁栄の根源である。

世界各地でいまだ紛争が絶えない現状を、国民はよその地域のこととしか感じていないのでは。国家が消滅すれば我々は流浪の民となる以外に道はない。世界の現実を目を向け、世界の国々と共存共栄を図るためにも、我々は「国家とは、民族とは」という最低限の基盤をしっかりと自覚することが肝要では。

(高)

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る  
 フリーダイヤル 0120-075-980  
 福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401  
 フリーダイヤル 0120-055-092  
 授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23  
 フリーダイヤル 0120-075-820


 神具・装束・授与品

木組の家 匠の技  
 総合建築業 株式会社 弘江組  
 〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567

また、宮務課を通じ、秋篠宮、常陸宮、三笠宮(寛仁親王)、桂宮、高田宮妃の各宮家へ献上申し上げ、皇室への献上を滞り無く終えた。

宗像大社復興期成会

宗像大社復興期成会は、当地宗像市赤間の出身で出光興産(株)の創業者である故出光佐三氏が、宗像大神に対する

並々ならぬ崇敬の念から昭和十七年に結成され、以後、出光店主は宗像大神の神徳宣揚と由緒の闡明を終生の念願として、多年に亘り尽力された。

復興事業は、まず由緒を闡明にすべく社史の編纂から着手し、昭和四十六年に『宗像神社史』上・下・附巻が完結した。



長年、復興にいたがいた宗像第二代会長

昭和五十六年三月に出光佐三氏が逝去されたが、出光興産社長出光昭介氏が復興期成会会長を引き継いで事業全般を統括していただき、『宗像大社文書』の編纂・刊行事業が緒につくことができた。

昭和五十九年五月に、顧問に成蹊大学名誉教授小島鉦作氏、編纂委員長に九州大学教授川添昭二氏、委員に早稲田大学教授瀬野精一郎氏・東京大学史料編纂所助教山口隼正氏(当時)を委嘱し、当大社・出光興産(株)・出光美術館関係者も交えての第一回委員会が開かれた。

これを機に、国の重要文化財の当大社関係文書を学術的に調査・集大成し、逐次刊行することによって当社の由緒をさらに明らかにし、あまねく神社会・関係学界の進運に寄与するとともに宗像大神の御神徳を宣揚することを目的として『宗像大社文書編纂刊行委員会』の組織が検討された。

各史料ごとに、釈文・読下し文・語句の詳細な注解・文書内容の大意をほどこした本編と、別冊とした影印本の二冊構成とすることなど、従来あまり例のない学術書として分かり易い内容にすることによって、広く利用されるよう配慮して執筆することが確認された。

第一巻刊行

八年間の研究・執筆期間を経て、平成四年十二月に第一巻が刊行された。大宮司家の家督相続・社領支配・社殿造営などを内容とする、宗像中世

◆ 神宝館特別展のご案内 ◆

歌人たちの競演 宗像大社所蔵五組の三十六歌仙図扁額

本展覧会では、桃山時代から江戸時代に奉納された扁額を一堂に公開します。当大社の歴史を語る貴重な五組の扁額は、狩野派画家の重要な作例などを含み学術的に高く評価されています。和歌の趣、歌仙絵の美が融合する雅の世界を皆様是非ご堪能下さい。



小野小町 延宝八年 黒田光之奉納

- 会 期 4月1日(水)~6月1日(月)
- 会 場 宗像大社神宝館3階展示室
- 拝観料 ◆大人500円 ◆大学・高校生300円 ◆中・小学生200円 ◆15名以上は1名に付100円引

- ※展示替え作業のため下記日程で休館予定です。
- 会期前:3月29日(日)~3月31日(火) 神宝館3階展示室のみ休館。
- 会期後:6月2日(火)~6月5日(金) 神宝館完全休館。



# 沖ノ島の鳥たち ④

## アマサギ・ハヤブサ

## カラスバト・カラス

武下雅文(タケシタ マサフミ)  
日本鳥学会会員

昭和7年(1932)1月生れ。北九州市在住。  
平成2年(1990)読売新聞西部本社を定年退職。昭和41年(1966)より野鳥に興味をもち、各種鳥類調査や離島調査を実施している。日本鳥学会、日本鳥類標識協会、日本鳥類保護連盟などの会員。

私は、沖ノ島及び付属島の小屋島で、1982年より春は4月、夏は7月下旬または8月に毎年鳥類調査を実施し、その結果110種の鳥類

を記録しました。全国レベルでも珍鳥とされているコグンカンドリ、サンカノゴイ、ミゾゴイ、ヒメウズラシギ、ヒメコウテンシ、マミジロタヒバリ

なども含まれています。そしてさまざまな鳥の生態なども観察してきましたが、特に印象に残った例を紹介し、(写真はすべて岡部海都氏撮影による)

### タヒバリを食べたアマサギ

冬期は南日本へ移動するサギ類の仲間、夏羽は頭から胸が亜麻色になるアマサギ。渡りの途中の休息と思いますが、餌は農耕地



ヒメコウテンシ (小屋島にて)

に依存し干潟は利用しない種なので、何を餌にするのかと考えていた矢先、草地のタヒバリを嘴で捕らえて食べたのには驚きました。昨年6月のリュウキュウコノハズク調査のおり、樹上で5羽が休息していました。仲間は既に本土



アマサギ (伏見にて)

では繁殖活動に入っているのに、何をしているのか不思議でした。

### 美食家のハヤブサ

ハヤブサは福岡県レッドデータブック2001では、絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。沖ノ島では少数が繁殖していますが、小屋島でも岩礁に止まっているのが見られます。バードウォッチャーに人気があるヤツガシラの羽が散乱しているのを見たことがありません。勿論ハヤブサの仕業



タヒバリ (沖ノ島にて)

です。沖ノ島の港でも、珍鳥のアカエリカイツブリがゆつくりと飛翔し、皆で楽しく見ていると、上空から矢のように舞い下りてきたハヤブサに、一撃をくらって餌となつてしまいました。珍鳥ばかり食べないで、カラスでも食べると言いたかったです。

### 地上で営巣かカラスバト

国の天然記念物に指定されている沖ノ島原始林には、これも天然記念物のカラスバトが生息しています。前記のレ



ハヤブサ (小屋島にて)



カラスバト (大島にて)

ツドデータブックでは絶滅危  
慎Ⅱ類に指定されています。  
福岡県では他にも姫島、玄海  
島、大島、白島、藍島などの島  
に生息、繁殖しています。カラ  
スのように黒っぽい大型のハ  
トで、ウアオーウアオーと牛  
のような声で鳴きます。夜間、  
オオミズナギドリと混同され  
た。林床で休んでいたのを、オ  
オミズナギドリと勘違いされ

たようです。山口県の牛島で  
は地上に営巣すると報告され  
ています。天敵の蛇のいない  
沖ノ島では地上営巣の可能性  
もあるようです。

知恵者のカラス

沖ノ島には多くのハシボソ  
ガラス、ハシブトガラスが生  
息しています。鳥類調査で上  
陸、野営をするのですが、用意  
した食料をこのカラスに盗ま  
れたことがあります。これに  
懲りて、以降は箱に入れて  
て天幕内に保管してい  
ます。このカラス達は、  
瀬渡し船がパトロール  
に出る時は知らぬ顔で  
すが、納竿で一定時間に  
港を出港すると、50羽く  
らいの群が一斉に飛び  
上がり、船の後を追うよ  
うについてきます。小屋  
島の釣り人を乗船させ  
島を離れると、着地、無  
人となった岩礁に下り  
て、釣り人の捨てていつ  
た撒き餌を漁ります。捨  
てられているテグスで  
も片付けてくれればい  
いのですが。

最後の大宮司  
宗像氏貞公墓前法要

〜本年は仏式〜



宗像大社最後の大宮司「宗  
像氏貞公」の命日にあたる三  
月四日、宗像市上八にある公  
の墓前で墓前法要が執り行わ  
れた。  
例年、当大社と氏貞公の菩  
提寺である承福寺(宗像市上  
八)が隔年で奉仕しているが、  
今年は承福寺の勤番にあたる  
祭典後、今門公民  
館で直会が催され、  
戦国乱世にこの神  
郡宗像を守り抜い  
た郷土の英雄の遺  
徳を偲び、この墓前  
祭・法会を子々孫々  
まで受け継いでいく  
ことを誓った。  
宗像氏貞公は、室  
町時代末期に活躍  
した第八〇代宗像  
大社大宮司。周防国  
黒川(現山口市)  
で生をうけ、幼少時  
に宗像家に養子と  
して迎えられ、神郡  
宗像を毛利・大友・



童造寺ら近隣の勢力から守  
り抜いた。  
現在、重文の本・拜殿(辺津  
宮)、中津宮(大島)の本殿を  
再建し、神郡内の社寺建立に  
も尽力され、郡民から厚い崇  
敬を受けたが、天正十三年  
(一五八六)四十二歳の若さ  
でこの世を去った。公の死は、  
当時大友勢と敵対していた  
ためその死は秘密にされ、亡  
骸は夜中密かに現在の地に  
埋葬したという。  
公に嫡子がなかった為、神  
代から続く宗像大宮司家は、  
豊臣秀吉の命によりここで断  
絶。以後、公の墓は、承福寺と  
地元に住む占部氏一族によ  
り守られている。

## 平成21年・日本海々戦記念 沖津宮現地大祭の御案内

今年も沖ノ島西方洋上で明治38年に国家の命運をかけ戦った日本海海戦の記念日を卜して、年に一度沖ノ島に渡島し、『沖津宮現地大祭』が斎行されます。  
下記、要項で参加者を募集致しますので、参拝ご希望の方はお申し込み下さい。



■ 船上から見た沖ノ島



■ 海中での禊



■ 沖津宮現地大祭の様子

### 沖津宮現地大祭要項

- ①参拝者は沖津宮奉賛会費として1名につき、**20,000円**お納め頂きます。
- ②参拝御希望の方は、当大社より『参拝申し込み書』をお取り寄せ頂き、**4月30日迄(必着)**に社務所まで御返送下さい。
- ③乗船者数に制限がありますので、申し込み**先着順**の参拝許可と致します。
- ④沖ノ島渡島前日の**5月26日(火) 18:00迄**に中津宮(筑前大島)に到着し、受付を済ませ、渡島安全祈願祭に御参列していただきます。(祭典後、各班ごとに説明会を行います)
- ⑤**5月27日(水) 7:00前後**に大島港を出港。
  - ・沖ノ島到着後、直ちに海水で禊をして頂きます。
  - ・祭典は**10:00**の予定です。
  - ・**13:00**沖ノ島を出港の予定で、大島着島は当日の天候次第で変動致しますが**15:00頃**の予定です。
  - ・大島 ▲—▼神湊間のフェリー最終便は**18:00**です。
- ⑥海上模様等で沖ノ島渡島が中止になった場合は、大島の沖津宮遙拝所で祭典を斎行致します。
- ⑦関係筋の通達により年令70才以上の方や、健康状態が良好でない方、長時間の乗船に耐えられない方は御遠慮願います。
- ⑧申し込み者には、受付後参加の諾否を葉書で御通知申し上げます。

### 沖津宮参拝心得

- ①遊山・魚釣等を目的とし、釣具類を持参しての乗船は固く禁止します。  
もし違反があれば乗船をお断り致します。
- ②沖ノ島上陸の際は、古例により海水で禊をし、心身を清める事。
- ③御神水以外は、一木一草一石たりとも持ち帰る事を禁止します。
- ④嚴重なる掟がある為、婦女子の参拝は固くお断り致します。  
大島での宿泊につきましては、参考要項に同封の、大島の旅館・民宿のパフレットを御参照の上、各自で直接予約願います。  
申込書・参拝心得・参拝要項等を用意しておりますので、返信用切手を同封の上、下記宛までお申し込み下さい。



### 申し込み先

〒811-3505 福岡県宗像市田島2331  
宗像大社社務所 祭儀部『沖津宮現地大祭』係  
TEL (0940) 62-1311 (代表)  
FAX ( / ) 62-1315

(続)

# 決の寄物

234

いしただし



昨年暮れに長崎市をさるい  
てきた。出島和蘭商館と長崎  
歴史文化博物館を主に見てき  
た。長崎は坂の街で、心臓病に  
は負担だったが、一応目的を  
達することができた。長崎市  
内は全国に走っていた路面電  
車を集めて運転、料金も百円  
と安い。のんびり、ゆつくりと  
歴史を訪ねることが  
できた。しかも私達の  
年令は路面電車で育  
ったので、懐しさも数  
倍あり、西鉄電車もあ  
った。

館内を歩くことができた。館  
はカピタン部屋(商館長)は出  
島で最も大きな建物で、役人  
や大名が訪れた時の接待の場  
所であった。乙名部屋は日本  
側の貿易事務や管理をするこ  
ろである。料理部屋は商館  
員が食事の用意をするところ  
である。

へトル部屋、商館長次席を  
へトルといい、その住居で、い  
まはミュージアムショップや  
研修室や学習室にあてられて  
いた。一番船船頭部屋はオラ  
ンダ船(一番船)船長や商館員  
の住居として使用されてい  
た。他に一番蔵、二番蔵、三番  
蔵などの倉庫等がある。

館を復元するにあたって、  
館内の発掘調査も行われてい  
る。館員達が吸っていたタバ  
コのパイプ(大量に発掘され  
ている。グレーパイプと呼ば  
れ、オランダのコーダ  
地方で製造された石膏  
製パイプで、吸って  
いる様子が  
版画にも残  
っている)  
ポトル、ガ  
ラス杯類、

日常に使われるオランダから  
運ばれてきた洋皿や椀、肥前  
産の陶磁器類も多く出土して  
いる。それらも館内に展示さ  
れている。食事の残滓、牛の骨  
やイノシシやシカ、鳥骨など  
も発掘調査で見つかっていた  
。出島は江戸時代には「でし  
ま」「てじま」と記し、オランダ  
の記録では「でしま」とある。  
ポルトガル人が住んでいた頃  
には「南蛮屋敷」オランダ人が  
住むようになって「和蘭陀屋  
敷」「出島屋敷」「紅毛館」と呼  
ばれていた。南蛮はポルトガ  
ル・スペイン。紅毛はオランダ  
やイギリスをさす。  
出島は一六三六年にポルト  
ガル人が、ここに移住させら  
れた。一六三七年(寛永一四)

出島和蘭陀商館跡  
(国指定史跡)は復元  
され、凡の館の姿が分  
かるようになってい  
る。ポランテアも配  
され、案内や説明もし  
てくれる。この日は、  
平日で、長崎は今日も  
雨だった。観光客は多  
くはなく、のんびり、



出島のミニ模型

へトル部屋、商館長次席を  
へトルといい、その住居で、い  
まはミュージアムショップや  
研修室や学習室にあてられて  
いた。一番船船頭部屋はオラ  
ンダ船(一番船)船長や商館員  
の住居として使用されてい  
た。他に一番蔵、二番蔵、三番  
蔵などの倉庫等がある。



VOCの文字ある大砲



カピタン部屋



旧長崎内外クラブ

# 第五七二回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切



北九州市 八幡西区 豊田 光子  
椎茸の椀木に菌を打つゆふへ朽葉は土になる匂ひせり  
労働から生れた秀歌。拍手をおくりたい。

うきは市 浮羽町 向 則正  
霜月は父が戦死をしたる月苦勞多き母の早逝の月  
少し直したが初句三句結句の月の脚韻が歌のリズムを良くし悲しみを増幅させている。

北九州市 八幡西区 吉田ウト子  
子らの住む街に移ると言ふをみな髪に乾反れる鱗の光る  
寄る年波には抗しきれない現実。下旬に女の人の生きざまが見えていい。

福岡市 若木台 野間 精一  
節分の定番といふ恵方巻宗像歌会に初めて知りぬ  
歌会は新しい知識を与えてくれる場でもある。招福巻、幸運巻の呼び名もある。

北九州市 戸畑区 田中ハツセ  
奔放に生きさし吾子が還暦に夫の蔵書の偉人伝読む  
一編の小説のようでもある。このままでもいいが、結句を「吉田松陰伝」など具体的に述べた方がいい。

宗像市 田野 森 甲子  
新しき魚・野菜が評判か朝より道の駅車の多し  
おらが里の道の駅の賑わいを喜ぶ作者である。

宗像市 土 穴 山本 静子  
小鹿田焼のコーヒー茶碗にしびれる指温めつつひとり飲みおり  
コーヒーはこころも身体もあたたためてくれる。至福の一時である。

宗像市 田 久 井上 光  
待ちわびし春一番は夜の更けの雨戸叩きて束の間に過ぐ  
来る春への期待が詠わせた一首であり、春一番の特性をよくとらえている。

福岡市 中央 池浦千鶴子  
焼芋を売る声だんだん近づき買って買ひたくなれど夜風に怯む  
寒さの前に食欲が負けた一瞬である。面白い。

宗像市 大島 杉田 禮子  
波よけに並ぶ鷗は一樣に東向きおり冬陽浴みつつ  
波が見え、胸毛をふかかれている鷗らの姿が見える。

宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子  
夕映えの港に立てば沖はるか光の中に船の消えゆく  
うまい歌。実力のある人だけにやや型にはまりすぎたのが惜しい。

宗像市 自由ヶ丘 一木 照代  
車窓よりふるさとの見ゆなつかしく今川添いのコスモスの花  
○車窓より見えるふるさとなつかしくいま川添いにコスモス咲けり とした方が、よりリアル感が出る。

宗像市 日の里 大和美由紀  
あざやかな紅梅写るカレンダー厨に眺め睦月は過ぎぬ  
季節を先取りしたカレンダーの写真に、やつと追い付いた季節を沁みじみと感じている作者である。

福岡市 南区 加野シノブ  
歌がきの友よりとどく便りきてうれいの胸にやすらぎの時よ  
持つべきは友である。「とどく」「来て」の重複が気になる。

福岡市 南区 井田有久衣  
春一番莞爾と咲ける白梅のほのかな香り鳥を誘う  
「莞爾と咲ける」は「過ぎて咲きたる」としなないと初句の春一番とつながらない。

福岡市 花見 佐藤 純一  
終日に吾が友と供欠かさずに短歌のことは啄木のこと  
二句三句が判りにくい。「終日を吾と友が語り合う」ではないか、表現は細心な心がけが必要である

## 選者詠

岬の空鶴の渡るを生活の節目のごとく詠ひたる人  
しるたへのダチュラもデイゴの朱の花も無造作に咲く岬の集落  
二つほどのしはせて来しを旅の夜に分ちて食へば蜜柑香に立つ

# 第五四七回 俳句作品集

宗像市 神湊 永島 紀子  
繋がれて舳先舂めく冬の波止

宗像市 東郷 田中 憲象  
持て余す許斐仰ぎて冬籠

宗像市 日の里 花田いつ枝  
庭石の窪にまんまと福の豆

## 編集後記

一月中旬、コ豆を待つっていると、レジ横に節分豆がありました。季節感があっていいと思いましたが、そこで目にしたものは小生の郷里でもある中部地方の著名寺院の名を冠した「〇〇寺御祈禱済済鬼打豆」でした。しかも〇五円。これは九州・福岡です。賞利を追求する企業が、他との差別化のために企画したのでしょうが、近年は大都市だけでなく地方でも高齢者の孤独化や核家族化が進み、日本の伝統風俗、慣習や季節感が「癒し」として人々に求められているのもまた事実。企業にとっては求められるニーズに添えているだけかもしれませんが、先月、帰省した際には「御公許品」と称した同寺院の商品が郷里に溢れており、尊厳の護持を考えると違和感を憶えましたが、神より仏に親近感や敷居の低さを感じたのは否定できません。神社神道は時に仏と習合・分離しながらも、伝統文化を継承し、その時代の日本人が生み出してきた信仰です。神社が今を生きる人や社会に対してできることが、またあると感じさせた一件でした。(塚)